

組報 多摩 No.15
 発行日 2015年11月1日
 浄土真宗本願寺派
 東京教区 多摩組
 事務所/西照寺内
 東京都調布市若葉町1-39
 〒182-0003 TEL03-3300-7734
<http://www.tama-so.org/>

本願寺の伝灯奉告法要 日程決まる

でんとう ほう こく

伝灯奉告法要修行期日（全10期80日80座）

◎2016（平成28）年

- 第1期 10月1日（土）から10月8日（土）まで
- 第2期 10月20日（木）から10月27日（木）まで
- 第3期 11月4日（金）から11月11日（金）まで
- 第4期 11月18日（金）から11月25日（金）まで

◎2017（平成29）年

- 第5期 3月7日（火）から3月14日（火）まで
- 第6期 3月28日（火）から4月4日（火）まで
- 第7期 4月11日（火）から4月18日（火）まで
- 第8期 4月25日（火）から5月2日（火）まで
- 第9期 5月9日（火）から5月16日（火）まで
- 第10期 5月24日（水）から5月31日（水）まで

※法要は1日1座（午後）とし、本山において修行される。
 ただし、2017（平成29）年4月18日に限り、
 大谷本廟において修行される。



「伝灯奉告法要についての消息」を
 読み上げられるご門主（今年1月）

このたびのご法要が、親鸞聖人によって明らかにされた
 阿弥陀如来の救いのはたらきに依りながら、
 時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として
 意義を持つものでありたいと思います。

ご門主「伝灯奉告法要についての消息」より

専如門主「伝灯奉告法要」

宗祖・親鸞聖人があきらかにされた「浄土真宗のみ教え」（法灯）が、聖人から数えて第二十五代となる専如ご門主に伝えられたことを、仏祖の御前に告げられるとともに、お念仏のみ教えが広く伝わることを願う、伝灯奉告法要が平成二十八年秋と二十九年春にとめられることになりました。

法要は、二〇一六年十月一日から十一月二十五日までと、二〇一七年三月七日から五月三十一日までを、十期（各八日間）に分けて、八十日間にわたって修行される。

（詳細上記）

法要は一日一座で、いずれも午後には御影堂と阿弥陀堂の両堂において営まれ、専如ご門主と即前門主の両門主様がご出座の予定。一九八〇年の即前門主の伝灯奉告法要では、御影堂、阿弥陀堂の周囲に仮設の参拝席を設けたが、今回は両堂が昨年に国宝に指定されたことを受け、「国宝の荘厳な雰囲気大切にしたい」と仮設参拝席は設けない。今回の参拝者総数は、二〇万人余りと見込まれており、参拝席は大遠忌と同じ椅子席。内訳は住職・寺族の総参拝が約四万人、門信徒の団参が約十六万人（一座約二千人）。

そして専如ご門主の願いを受け、これまで宗門や浄土真宗にあまり縁の無かった一般の人たちや外国人にも参拝してもらえよう、様々な記念行事を検討することとしている。

多摩組東北研修旅行ご報告
 ↳被災地を巡って

明西寺世話人 吉丸 八 紘
よしまる やつひろ

昨年十月二日から三日にかけて、東日本大震災の被災地を巡る旅行があった。主要訪問先は、仙台の専能寺・仙台別院・三陸鉄道南リアス線・陸前高田市。震災から三年半、まだまだこれから先の復興の道筋は途轍もなく長い。

専能寺（浄土真宗本願寺派）は、被害甚大。足利住職は自寺のことより毎日毎日次々と（ご門徒に限らず）臨終勤行に明け暮れたとのこと。そしてお寺の再建はまさに次々と集まってこられたご門徒、遠近のご友人達等の助けにより、活力を取り戻していくことが出来たとのこと。

仙台別院。ここは、東北教区災害ボランティアセンターにもなっており、震災後の救援物資のとりまとめ・配送、被災寺への職員派遣、仮設住宅内での二週間に一回のお茶会開催、居室訪問、数次にわたる法要の開催など、実効性ある心に届く、まさに物資・人心両面に亘る復旧支援の中心として機能してきている。

三陸鉄道南リアス線。昨年四月に全線開通した三陸鉄道南リアス線では、運転手さんが沿線のガイドも行うなど、社員の方々が復興の強い気持ちを持ち、全国の人々に被災地支援への理解を、という熱意が伝

わって来た。陸前高田市。当地は、市街地がほぼ壊滅した。十一メートルの地面の嵩上げ、宅地造成、区画整理、ライフラインの構築、住宅建設等々、まだまだ先の復興プロセスは数多い。

今回の震災津波では、「あの時自分が手を離さなかったら」、と己を責め続ける方々が多いと聞く。でも、今回専能寺の足利ご住職のお話でもあったと思うが、「皆さん、連れ合いを、お子さんを、一人ぼっちで亡くされたら、強く己を責めておられるが、ちゃんと、阿弥陀様が手を離さず、繋いでおられたはずだ。」と仰ったのが強く記憶に残っている。嗚呼、と感謝せずにはおられない。 —合掌—



陸前高田市の市街地跡

多摩組公開講座の開催

ビハーラについて学ぶ

明年（二〇一六年）二月二十七日（土）午後二時より、宗門関係学校である武蔵野大学（西東京市）において、多摩組主催の公開講座が開催されます。

ビハーラについて学ぶ公開講座で、多摩組各寺院のご門徒はもとより、武蔵野大学の学生、一般の方々にまで門戸を広げて行きます。

講師は群馬県緩和ケア診療所・いっぽ勤務の萬田緑平医師で、「最期まで目一杯生きる」という講題でお話しいただきます。

本公開講座は、総代世話人、仏壯、僧侶研修の合同研修会も兼ねております。

雪頂（せつちょう）講堂という六百人以上の講堂で行いますので、広く組内の皆様にご参加いただきたく存じます。

尚、公開講座についてのお申込み、お問い合わせは、組内各寺院までお願い致します。（藤原）

多摩組公開講座
 -ビハーラについて学ぶ-
 2016年2月27日(土)
 午後2時～
 武蔵野大学 雪頂講堂
 (西東京市新町1-1-20)
 講師 萬田緑平氏
 (緩和ケア診療所・いっぽ勤務)
 講 題
 「最期まで目一杯生きる」

まことの智慧

— 妙好人おきそ —

明治の初め頃、山口県山口市の小さな村に、おきそという名の老女が一人暮しをしておりました。このおきそさんは村人からは愚かな人と見られており、当時そのような人のことを「天保銭」と呼んでいたそうです。

ある時、同じ村の一人の老人が丈夫で堅い木の枝で、おきそさんの為に杖を作りました。その折に、少しからかい半分に「お前よりもっと天保銭な者がこの村に出たら、この杖はその者にやっつけてしまうのだぞ」と言いました。すると、おきそさんは「へえ、ありがとうござんす」と喜んで頂き、いつでも何処へ行くにも使っていました。しばらくたつた頃、この杖をくれた老人が病で、そう先は長くないとの評判が村中に広まりました。おきそさんはそれを耳にすると早速この老人を見舞いに赴き、本人の寝ている部屋に上がり「エライ難儀なことですのう。村ではお前さまはもう先がないともつぱらの噂だが、お前さま、死んだら何処へ行きなされるかいな？」と尋ねると、老人は「そんなこと俺に聞いて分かるはずがなからう」と答えました。これを聞くと、おきそさんは玄関に置いて来た杖をもつてきて「ここにワシよりもつと天保銭がおったわ。この杖、お前さんに上げるわ」と枕元に置いてさっさと帰ってしまいました。

照恩寺住職

山 やま 本 もと 豊 ほう 浄 じょう

また、おきそさんの家の前は、役場に行く者は必ず通らねばならぬ道でした。ある頃、おきそさんが朝夕毎日、村長さんがお通りになるのを、玄関先で待ち受けるようになりました。その折、おきそさんは村長さんの顔をジーツと見ては、ため息をつき「いやあ、村長さんは気の毒だ、気の毒だ」と独り言を言ったそうです。最初は気にもとめなかつた村長さんですが、毎日二回そのようにされるので、しまいに腹が立ち、ある日、おきそさんの袖を掴んで「こちら、おきそ、お前はわが身のことを知っておるか？天保銭と呼ばれている愚か者のお前の方がよっぽどあわれじゃ！」と言いました。その時のおきそさんの返答が天下第一品でしたので、今に残っております。「へい、ありがとうござんす。私しや天保銭と呼ばれるのが何よりもありがとうござんす。私しや天保銭の空いている穴から先が

よう見えますが、村長さん、お前さまは名家の生まれでインテリで高給取りじゃ。役場でもらってくる銭は穴の空いていない紙幣ばかりじゃろう、それで先が見えますかいな？」これを聞いた村長さんは青天の霹靂の思いだったそうです。そこで、おきそさんの知恵の出処を調べましたが分かりません。ただよく寺参りをしているとの情報のみでしたので、こっそり寺に行き法話を聞いて初めて納得したとの事です。そこ

で、仏様のまことの智慧を知ったのです。以来、村長さんはお聴聞に励むようになったので、村人達も同様に寺参りをするようになり、念仏繁盛となりました。一人の名もなき花の馥郁たる御法義の香が、多くの人びとを働化したのです。

人間以外の生き物は、今日だけで生きていますが、人間存在のみは、明日からの、お浄土からの光なくしては生きることすらぬことも出来ません。その光とは、経典の御文であり、その凝縮した言葉こそ「南无阿弥陀仏」でありましょう。言葉にまでなつて下さり、この私にじかにはたらい下さるみ仏様そのものです。この私という生死するいのちの本当の答になつて下さり、常にこの私に御一緒に連れ添って下さっています。この他力の親様は、この私を御自分をごらんになるように思つて下さいませ。それ故に、止むにやまれず立ち上がり、頼まれせぬのに、この私の胸に飛び込み、お宿り下さっているのです。

このようなことは仏様多しといえども弥陀一仏と伺つております。されば諸経典に最も多く阿弥陀仏が讃嘆される所以です。私どもはお互いに、よき親様に遇わせて頂きましたことを喜び、感謝する生活でありたいものです。

称名



仏教壮年会

多摩組仏教壮年会連盟理事長

井上義次 いのうえよしじ

東京教区仏教壮年会の活動

「第三十五回東京教区仏教壮年会連盟結成記念日研修会」が、本年二月十四日（土）～十五日（日）の一泊二日で、磯部ガーデンホテルで開催されました。

講師はカウンセラーの富田富士也氏。「そつとつながる・ホッがつたわる」「今までの通りで良いのでしょうか？」とのテーマで講演をいただきました。担当組は、中組・南組・北組でした。

次回の結成記念日研修会は、来年二月二十一日（日）～二十二日（月）。鎌倉組・相模組の担当で、会場は箱根富士屋ホテルにて行われる予定です。

多摩組仏教壮年会連盟の活動

平成二十七年六月二日（火）麻布組光善寺に於て理事研修会開催。理事十一名と圓成寺圓城住職が参加して、布教使柳川真諦師（光善寺坊守）にお寺の沿革をはじめ、ご自身が布教使になられたご縁などをお話しいただきました。

まず、麻布山善福寺のこと。親鸞聖人が京都に帰京される前に善福寺にご逗留になり、そのご縁で真言宗だった善福寺が浄土真宗に改宗されたとのこと。

光善寺は、僧明藝により武蔵国・世田谷上宿に松本山光善寺を建立されましたが、その後芝に移転しました。江戸前期光善寺第六世の頃、善福寺の長女との婚姻がととのい善福寺寺領を譲渡され現在に至るとのこと。

現住職とのご縁は、日本航空CA時代、高度一万キロメートル上空での出逢いが始まりとのこと。その後、東京仏教学院で学び得度。バブル崩壊などの混乱の社会の中、念仏の教えの真実に感銘を受け、その感動を皆に伝えるために布教使をめざして学び続けたとのことでした。

明年（平成二十八年）二月二十七日（土）に、多摩組三団体合同研修会として公開講座を予定しております。「ビハラーについて学ぶ」をテーマに、武蔵野大学にて開催、時間は午後二時から。

総代世話人会

多摩組総代世話人会代表 土田良幸 つちだ よしゆき

東京教区門徒総代連絡協議会

① 第一回門徒総代・世話人会
平成二十七年六月二十三日（火）
午後三時 於築地本願寺

・ 役員の改選

・ 今年度の活動計画案の承認

・ 一日研修会のテーマ、講師の決定

② 第二回門徒総代・世話人会

平成二十七年八月四日（火）

午後三時 於築地本願寺
・ 一日研修会の役割分担・他
③ 第三回門徒総代・世話人会開催予定
平成二十八年一月十九日（火）
午後三時 於築地本願寺

東京教区門徒総代・世話人一日研修会

平成二十七年八月二十九日（土）
午前十時 於築地本願寺
・ 講師 丘山願海師
（浄土真宗本願寺派総合研究所所長）

・ テーマ 午前 寺院の活性化に向け行動すべきこと
午後 現代生活での仏教・真宗とは？

午後 現代生活での仏教・真宗とは？

全国門徒総代会・第一連区大会・研修会

平成二十七年九月一日（火）午後三時 於仙台別院

・ 講師 艸香雄道師

（東京教区群馬組西蓮寺住職）

・ テーマ 寺院における門徒総代会活動の活性化とその課題

多摩組総代・世話人実行委員会

① 総会の開催予定
平成二十七年十二月五日（土）
午後三時 於仙川

② 今年度仏教壮年会研修会・僧侶研修会

総代世話人研修会との合同研修会を開催（公開講座として開催）

平成二十八年二月二十七日（土）

午後二時 武蔵野大学にて

・ 詳細は、後日連絡致します。

仏教婦人会

東京教区仏教婦人会連盟多摩組代表

覺證寺門徒 高橋理恵子
たかしりえこ



念仏に生かされるよろこびを行動へ

(東京教区仏教婦人会連盟スローガン)

年を重ねても新しい体験は、不安と喜びを覚えるものですが、そのための体力と時間が残っていることを、ありがたく思っております。

このたび私が参加させていただきますダンナ部会では、あそか園でのご奉仕活動をさせていただきます。形に見えること、みえないことを含めて、困難をかかえた人々に寄り添うことを心がけたいと存じます。とともに、この仏教婦人会活動の趣旨をご理解くださる方が、一人でも多く参加されることを切に願っております。

また、これまで多摩組に於いて仏教婦人会の絆をつないで来られた、明西寺様、大恩寺様、延立寺様に感謝申し上げます。今後とも、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

門徒推進員協議会

門徒推進員協議会世話人

麻木純三郎
あききじゆんざぶろう

このたび正善寺の松田勝次さん、誓願寺の野田和義さんが加わり、メンバーは二十名となりました。この他二名の方が中央研修を受講する予定なので、年度末には二十四名となる予定です。活動状況・課題等についてご報告します。

(1) 読書会について

「ごえん」(浄土真宗本願寺派総合研究所)をテキストに実施していましたが、十一月中に終了する予定です。新しいテキストを検討中ですが、『仏教を生活の中に落とし込む』をテーマに、話し合い中心とするスタイルは継続していく予定です。

(2) 東京教区門徒推進員協議会

一泊研修会

昨年は、法統継承式の参拝を兼ねて、京都で実施されましたが、今年は千葉県鴨川市の鴨川グランドホテルで行われました。九月六日〜七日 千葉組主催 参加者八十名 一日目は、千葉組西光寺の吉弘一秀師による節談説法「仏のものさし・世間のものさし」。その後、各組の活動報告、大宴会場の懇親会は大変にぎやかでした。二日目は、神奈川組高願寺の宮本義宣師

による講義。テーマは「門徒推進員の活動について」。その後、班別に分かれて話し合い法座を行い、充実した研修が終了しました。多摩組からは五名の門徒推進員が参加しました。

(3) 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要に出席

今年には戦後七十年という節目の年です。九月十八日(金)千鳥ヶ淵戦没者墓苑で盛大な法要が厳修され、平和への誓いを新たにしました。多摩組からは昨年を上回る十五名が出席しました。

(4) 連続研修会の支援

第十期連続研修会を控えて、門徒推進員協議会では運営の支援につき準備を検討中です。

(5) 今後の課題

東京教区内の各組には、多くの門徒推進員がいますが、門徒推進員協議会のある組は少ないのが現状です。多摩組の門徒推進員協議会では、他組の活動も参考にしつつ、『御同朋・御同行』の雰囲気を大事にした活動を継続したいと考えています。



中ブロック門徒子弟研修会

お寺に行って海に行こう!



海といえば 「スイカわりーい！」

今年度の中ブロック門徒子弟研修会では、毎年恒例となるサマーキャンプをYMC A三浦ふれあいの村を会場に実施いたしました。八月四日から五日にかけた一泊二日のプログラムに参加者二十七名（小学生）、スタッフ三十一名（OB、OGの中・高・大学生含む）、総勢五十八名が集ってくれました。今回は昨年度の要望に応え、海を舞台に「キッズサンガdeさまーきやんぷ」と題して企画されましたが、サブテーマ「お寺に行って海に行こう！」の通り、開会式はお寺で開催。今回は町田市の

圓成寺さまにお世話になりました。初めての参加者も多かったため、開会前にはスタッフから合掌礼拝の作法、仏教讃歌の歌唱指導などが行われ、厳かに開会式を迎えました。

お寺独特の雰囲気緊張した面持ちの子も見受けられましたが、終わってしまえば、少し緊張もほぐれた様子で笑顔がこぼれていました。

このように少しの時間でも子ども達に、お寺に参り、手を合わし、お念仏申すことに触れてもらえる、そんな機会を様々な場面で増やしていかなければならないように思えます。



↑緊張の開会式



→スイカうめえ。

開会式を終えた後はバスで一路、三浦半島へ。昼食の後、待ちに待った海遊び。子どもたちは無我夢中で遊んでいました。夜にはバーベキューと夜の集い。集いではみんなで花火を楽しみながら、最後はスタッフの法話に、きちんと耳

を傾けている様子は印象的でした。二日目は、早朝から「おあさじ」を体験。仏教讃歌に法話と、眠い目をこすりながらもお寺の行事を体験してもらえ、良い機会となりました。

その後は、疲れなんて何のその、元気いっぱい海を楽しみ、ようやく全プログラムを終え、帰路へ。

開催前には、海の危険性や暑さ対策が心配されていましたが、二日間、スタッフの万全な協力体制により、子どもたちは始終笑顔に包まれ、楽しんでくれていたように思います。

最後は参加者全員が、無事に圓成寺で阿弥陀様のもとに集い、今年度のサマーキャンプを終えることができました。（溝口）



「来年も来るよ～」 「また会おうネ！」

住職に聞きました

お寺を訪ねて

せんねんじ
専念寺(八王子市元横山町)

今回お訪ねしました圓融山専念寺は、JR八王子、京王八王子両駅より北へ、徒歩約十分程の静かな住宅地の中にあります。当日は、第十六代目ご住職の本多周爾師にお話をお伺いしました。



本多周爾住職

布教使としてハワイ、北米、中国等で布教活動をされた、十四代目にあたる祖父の本多周山師が明治十八年に、この地に専念寺を建立されました。発祥の地は、現在の岐阜県瑞穂市本田で、天文十二年(一五四三年)に建立されました。明治時代になって八王子に移り、現在のお寺が建立されました。当時の八王子には、本願寺派の寺院がまったく無く、八王子地区ではいちばん古いそうです。本多周山師のあとを引き継ぎ、父君の本多周英師が住職となり、現在

は、本多周爾師が第十六代目としてご住職を勤めておられます。狭山にある武蔵野学院大学大学院教授としても勤務をしておられ、国際コミュニケーション論を教えておられます。学生には外国人も多く、気を使うことも多いそうです。教授とご住職両方のお仕事で、かなりご多忙な日々をお過ごしのご様子でした。特に、大学の講義日とご葬儀やご法要等が重なりますと、調整にご苦労されることがあるようでした。

お寺では、彼岸会、宗祖降誕会、盂蘭盆会、報恩講等の法要を通して法話会を開催し、布教活動を行っておられるとのことでした。なお、孟蘭盆会のご法要は、七月、八月と二回厳修しています。年一回は総代の方々の懇親会を開催し、交流を図っているとのことでした。総代さんや役員の方々は、この地にお寺を建立以来、地元の名士の方々が多く、今でも様々な活動を通して、お寺を支えて下さっているとのことでした。また、ご門徒の方々も昔からの繋がりの方が多いとのことでした。ご住職として常に心がけておられることは、「ご門徒と誠実に親切に接する」ことで、本堂人口には巾広いゆるやかなスロープが設置されており、お年寄りの方でも楽に本堂に入ることが出来る様になっておりました。墓地についても清掃と安全を心がけ、墓地全体をお年寄りの方が転ぶことが無いように、足元は全面舗装を施しておりました。

お寺は太平洋戦争末期に空襲で全焼してしまいましたが、ご本尊や過去帳等は持つて避難したので焼けずに済みました。その後、本堂は昭和三十年代にコンクリート仕様で再建されました。拝見した本堂は、年

代をまったく感じさせることがありませんでしたが、ご住職のお話では、三十年代の造りなので天井が高く、夏や冬の冷暖房のききが悪いので困っていますと苦笑いをされておられました。また、本堂に御安置されている阿弥陀如来像は、他の寺院の如来像とは少しお姿が異なっておりましたので、その点をお伺いすると、「この像の後ろ側には親鸞作と書かれている」と前任職から聞いていたが、動かして壊れるのが怖いので私は確認はしていない(笑)とのことでした。お話をお聞きしている間も、こやかで優しさに溢れたお人柄でした。

これからも大学教授とご住職の二つの役目を果たしてゆかなければならないお立場にあり、気の抜けない日々が続くのではと感じました。しかし大学院では先生のお人柄に接して、学びを深めている学生さんも多いことと推察致しました。これからもご法務と大学教授のお仕事とでご多忙な事と思いますが、益々のご活躍を念じながらお寺をあとにしました。
(麻木・土田・辻)



専念寺本堂入り口

西本願寺 (京都・本山)

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

電話 075(371)5181

FAX 075(351)1211

築地本願寺・東京教区教務所

〒104-8435 東京都中央区築地3丁目15番1号

築地本願寺電話 03(3541)1131

教務所電話 03(3541)1666

東京教区多摩組寺院所在地

調布市

光徳寺 (こうとくじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-38-27
TEL03(3300)6431 FAX03(5384)3344
(法座:不定期 お問い合わせ下さい)

明西寺 (みょうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-43-5
TEL03(3300)1901 FAX03(3300)2681
(法座:10日前後婦人会 1.4.8月壮年会)

延浄寺 (えんじょうじ) 〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-1
TEL03(3326)7337 FAX03(3326)5037
(法座:不定期 相談日第1土曜日午後予約)

長専寺 (ちょうせんじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
TEL042(482)3411 FAX042(498)1105
(法座:不定期)

西照寺 (さいしょうじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-39
TEL03(3300)7734 FAX03(3300)7794
(法座:毎月8日・第4土曜 親鸞会)

光西寺 (こうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-2
TEL03(3300)5054 FAX 同左
(法座:不定期)

光源寺 (こうげんじ) 〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-11
TEL03(3300)0881 FAX03(3308)6289
(法座:隔月奇数月 お問い合わせ下さい)

覺證寺 (かくしょうじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-5
TEL042(482)5556 FAX042(480)0166
(法座:第1土曜日・聖典学習会 月1回)

正善寺 (しょうぜんじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-42-5
TEL03(3300)6064 FAX03(3300)6687
(法座:第1日曜日 (1日なら8日))

安養寺 (あんようじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-5
TEL03(3307)5605 FAX03(3307)5496
(法座:第1日曜日)

圓福寺 (えんぶくじ) 〒182-0022
調布市国領町1-10-11
TEL042(482)7955 FAX042(481)4734
(法座:不定期)

国立市

應善寺 (おうぜんじ) 〒186-0002
国立市東2-2-1
TEL042(572)0043 FAX042(572)0148
(法座:毎月第1土曜日)

立川市

光西寺 (こうさいじ) 〒190-0021
立川市羽衣町3-20-16
TEL042(522)3413 <http://www.kousaiji.com/>
(法座:毎週金曜晩又は土曜昼 各種仏教講座)

小平市

照恩寺 (しょうおんじ) 〒187-0041
小平市美園町3-23-20
TEL042(341)2935 FAX042(347)4122
(法座:毎月13日・第1土曜・第4土曜)

青梅市

浄弘寺 (じょうこうじ) 〒198-0036
青梅市河辺町8-19-8
TEL0428(32)1769 FAX0428(32)2010
(法座:第3土曜日)

八王子市

専念寺 (せんねんじ) 〒192-0063
八王子市元横山町2-14-24
TEL042(644)3491 FAX042(648)6087
(法座:隔月1回 お問い合わせ下さい)

誓願寺 (せいがんじ) 〒193-0816
八王子市大楽寺町209-5
TEL042(651)0073 FAX042(651)6183
(法座:第3木曜日・毎月10日大楽の集い)

光照寺 (こうしょうじ) 〒192-0912
八王子市絹ヶ丘3-8-1
TEL042(635)3754 FAX 同左
(法座:不定期)

本光寺 (ほんこうじ) 〒1923-0832
八王子市散田町4-40-10
TEL042(664)2196 FAX042(663)2501
(法座:仏教講座 第3金曜日)

延立寺 (えんりゅうじ) 〒193-0802
八王子市犬目町681
TEL042(654)2429 FAX042(654)6930
(法座:第4月曜日)

大恩寺 (だいおんじ) 〒193-0943
八王子市寺田町1085
TEL042(668)0889 FAX042(668)1825
(法座:第2土曜・第4日曜・第1土曜(婦人会))

町田市

圓成寺 (えんじょうじ) 〒194-0004
町田市鶴間1210
TEL042(795)0181 FAX042(795)0444
(法座:毎月28日)

(えんじょうじしゅっちょうしょ)
圓成寺出張所 〒194-0035
町田市忠生3-24-13
TEL042(792)3007 FAX042(792)3006
(法座:毎月10日 休日なら翌日)

(まちだふきょうしょ こうげんじ)
町田布教所 高源寺 〒195-0063
町田市野津田町2534-20
TEL042(737)3236 FAX 同左
(法座:第2土曜・23日前後の平日)

多摩市

阿弥陀寺 (あみだじ) 〒206-0013
多摩市桜ヶ丘1-24-2
TEL042(375)8055 FAX042(337)4889
(法座:年3回・毎月28日 明宝会・毎月15日前後 極楽トンボ会)

稲城市

玄忠寺 (げんちゅうじ) 〒206-0822
稲城市坂浜878-6
TEL042(331)3655 FAX042(350)1530
(法座:第3日曜日)

(法座へお出かけの折には、必ず電話にて日時をご確認の上、お出かけ下さい。)